# 信州諏訪に立川流を訪ねて

某神社の依頼で立川流の彫刻と建物調査に一月に長野まで行ってまいりました。これまでにない暖冬ということで、多分雪は少ないだろうと予想はしていましたが、想像以上の少なさで途中のサービスエリアでは真っ白に雪化粧した八ヶ岳がきれいに望めました。

立川（たてかわ）流は江戸時代の中期から後期にかけて初代立川和四郎富棟・二代富昌・三代富種と続いた建築彫刻の一派です。今回の調査の目的の立川和四郎富棟は延享元年（一七四四年）に諏訪地方に生まれ江戸に出て立川小兵衛富房に師事し寺社建築の修行を積み宮大工になり一度帰郷しましたが、彫刻を学ぶために再度江戸に出て両国に住む古沢常足に師事し明和五年（一七六八年）に帰郷しました。

まず、最初に行ったのは茅野市のＪＲ茅野駅からも近くの惣持院の境内の白岩観音堂で、富棟が帰郷して最初に手掛けた建物になります。彫刻を多くありませんでしたが、扇垂木仕様で意気込みが感じられました。

次は今回の調査の最大の目的の諏訪大社秋宮に向かいます。白岩観音堂からも車で二〇分位のみちのりを諏訪の町並みや諏訪湖を見ながら車を走らせました。諏訪大社では権宮司の原さんの案内で、秋宮だけでなく春宮も見学させていただき、一般の人が入れない拝殿の奥まで見ることができ、丁寧に説明を伺いました。秋宮の幣拝殿は諏訪立川流和四郎富棟の名声を世に広めた出世作なだけあって見事な彫刻に圧倒されました。

諏訪大社秋宮の幣拝殿　獅子木鼻

諏訪大社を出るころには午後四時頃になってしまいましたが、今日の最後の目的地の辰野町の矢彦神社まで向かいました。矢彦神社は山あいの集落で塩尻市との境に小野神社と並んでいます。今回の調査に行くために調べたところ、矢彦神社の拝殿と左右の回廊も富棟作とわかり訪ねることにしたのですが、思いのほか素晴らしい彫刻に出会うことができ感激をしてしまいました。天明二年の造営とあり諏訪大社秋宮のあとで建築したようなので技術が向上したのではないかと思います。

立川流は初代の和四郎富棟より始まり、享和二年から静岡浅間神社の彫刻を手掛け没後は二代富昌が引き継ぎ約三十年の歳月を費やし、広く世間に名をしられるようになりました。そして二代富昌の時代には関東地方から東海・近畿地方にかけて幅広く活動し、社寺彫刻だけでなく山車彫刻も手掛け数々の名彫刻を製作し現在まで残しています。

このように二五〇年以上の年月を経ても、見る人に感動を与えることができるということは素晴らしいことです。弊社が手掛けている寺社建築も二〇〇年、三〇〇年後の後世まで受け継がれ、檀家さんや地域の皆様に愛される建物を造っていきたいと決意を新たにいたしました。

代表取締役　澤　元　教　哲